

解説 1

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

- 接続詞は、2つのものを接続する品詞で、等位接続詞と従位（従属）接続詞の2種類がある。
- 等位接続詞（and、but、or など）：その前後の内容を対等に（等位に）接続する。
- My father **and** I went fishing yesterday. 「父と私は昨日、釣りに行った。」－①
※ and が、My father と I（どちらも主語で、名詞）を等位に接続している。
- Most birds fly, **but** ostriches don't. 「たいていの鳥は飛ぶが、ダチョウは飛ばない。」－②
※ but が、Most birds fly と ostriches don't (fly)（どちらも節）を等位に接続している。
- 従位接続詞（that、when、because など）：節の直前に置くことで、主節に従う従属節を作る。
- **Because** she is kind, everyone likes her. 「彼女は優しいので、みんな彼女が好きだ。」－③
※ 文の中心となる節を主節といい、ここでは everyone likes her が主節にあたる。
これに対して、接続詞 because が導く節 Because she is kind を従属節といい、主節に従属していると考え。接続詞は、従属節を主節に接続する役割を果たす。
ここでの従属節は〈理由〉を表す副詞（節）。副詞なのでなくても英文が文法的に成立するし、語順にも縛られない（Everyone likes her because she is kind. とすることができる）。
- Everyone agrees **that** he is our leader. 「彼がリーダーであることにみな同意している。」－③
※ この文では、Everyone agrees が主節、that he is our leader が従属節となる。
接続詞 that 「～ということ」が導く節は、ここでは動詞 agree の目的語なので、名詞節。
目的語は〈文の要素〉なので、なくしたり位置を変えたりはできない。
- [参考] 1つの文は、それを構成する節の種類によって、4種類に分類できる。
- 節を1つだけ含む文を〈単文〉という（①）。このときだけ、主節＝文が成立する。
- 等位節を含み、従属節を含まない文を〈重文〉という（②）。
- 従属節を含み、等位節を含まない文を〈複文〉という（③）。
- 等位節を含み、そのいずれかの節が従属節を含む文（重文と複文が混在する文）を〈混文〉という。
- He knows her, but he doesn't know that she also knows him.
「彼は彼女を知っているが、彼女も彼を知っていることは知らない。」（※ that 以下が従属節）

A 演習 1：基本問題

従属節を（ ）で囲み、その品詞的役割を答え、さらに全体を和訳しなさい。

- 例 I think (that she is a great singer) . (名詞節)
「私は、彼女は素晴らしい歌手だと思う。」
1. I often played cards when I was a child . ()
「
2. I don't remember when I first met you . ()
「
3. We have known each other since we were six . ()
「

演習 1：解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. when I was a child (副詞節) 「子どものころ、私はよくトランプをした。」 ※従属節は、接続詞 when が導く副詞節で、時を表す。この節がなくても文が成立し、冒頭に持ってきて意味は変わらない。
2. when I first met you (名詞節) 「初めてあなたに会った時のことを私は思い出せない。」 ※従属節は、接続詞
- when が導く名詞節で、動詞 remember の目的語。この節がないと文が成立しない。
3. since we were six (副詞節) 「私たちは6歳のときからお互いを知っている。」 ※従属節は、接続詞 since が導く副詞節で、時（継続）を表す。現在完了形の文。

解説 2

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

□ 副詞節を導く接続詞（句）

- I do homework **before** [after] I eat dinner.
「私は夕食を食べる前〔後〕に宿題をする。」〈時〉
- Get in touch with him **as soon as** you can. 「できるだけ早く彼に連絡して。」〈時〉
- **Although** I like dogs, dogs don't seem to like me.
「私は犬が好きだが、犬には好かれよう。」〈譲歩〉
- **Whether** you like it or not, you have to take the midterm exam.
「あなたが好むと好まざると、中間試験を受けなくてはならない。」〈譲歩〉
- You can take this CD home **as long as** you return it by Friday.
「金曜日までに返してくれるなら、このCDを持ち帰ってもいいよ。」〈条件〉
- **Once** you get it, you won't want to lose it.
「いったん手に入れたら、失いたくなくなる。」〈条件〉
- Things will go worse **unless** [if] you are involved.
「あなたが関わらないと〔関わると〕、事態は悪化するだろう。」〈条件〉
- **As** it got darker, more people gathered in Shibuya.
「暗くなるにつれて、より多くの人々が渋谷に集まった。」〈比例〉

□ 名詞節を導く接続詞

- She asked me **if/whether** we can make it on time.
「彼女は、私たちが時間通りにたどり着けるかどうか、私に尋ねた。」〈可能性の提示〉
- The guide showed us **where** Steve Jobs started his business.
「ガイドは、スティーブ・ジョブズがビジネスを始めたところを案内してくれた。」〈場所〉

B 演習 2：基本問題 従属節の品詞的役割を答え、さらに全体を和訳しなさい。

1. I don't know if it will rain tomorrow. ()
「
」
2. What shall we do if it rains tomorrow? ()
「
」
3. Whether you like it or not doesn't matter much to me. ()
「
」

演習 2：解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. 名詞節「明日雨が降るかどうかということを知らない。」 ※従属節の if 節は、動詞 know の目的語。目的語は必ず名詞（句・節）。
2. 副詞節「明日雨が降ったら、私たちは何をしましょうか。」 ※従属節の if 節は、条件を表す副詞節。なくても文法的な文が成立し、冒頭に持ってきて意味は変わらない。なお、時と条件を表す副詞節の中では、未来のことで現在形で表現するのが原則。その条件やその時の
- 実現を仮定しているのがその理由だが、繰り返し音読してニュアンスを体得しよう。1のように、名詞節ではあてまらない。
3. 名詞節「あなたがそれを好きかそうでないか、私には大して重要ではない。」 ※従属節の whether 節は、文の主語となる名詞節。文の動詞（述語動詞）matter は「重要である」、not ~ much は「さほど〜ない」の意味。

年 組 番 氏名

実施日 年 月 日

A	/3
B	/3

検印